

## 令和7年度トヨタ工業学園卒業式 豊田会長あいさつ

卒業生の皆さん、ご家族の皆様、ご卒業おめでとうございます。

また、ご多用の中、愛知県労働局の澤田様をはじめ  
多くのご来賓の皆様に、ご臨席賜り厚く御礼申し上げます。

今年の卒業式は、司会から式典の補助まで在校生が担当していると聞きました。  
お世話になった先輩を自分たちの手で送り出したい。  
そんな想いのこもった学園らしい卒業式にしてくれたことを嬉しく思います。

卒業生の皆さんとお会いするのは2週間前の章男塾以来です。

「本音と建前の使い方を教えてほしい」  
「なな子がんばれ！と言ってほしい」  
「自信をつけるために腕相撲で勝負したい」

面白い質問やリクエストがたくさんありました。

ラリーカーのデモ走行では歓声をあげて喜んでくれました。  
そして最後に、「卒業式ではもっと成長した姿を見せたい」、そう言ってくれましたね。

今、私を見つめる一人ひとりの顔。本当に頼もしくなりました。  
毎日の朝礼や訓練で積み重ねてきた努力がその姿に表れていると思います。

高等部の皆さんは海での遠泳訓練に挑んでくれました。

中学の3年間はコロナ禍で水泳の授業ができず、まったく泳げない人も多かったと聞きました。

それでも自主練習を重ね、全員が2時間以内に5キロを泳ぎ切りましたね。

これは25mプールを200回続けて泳ぐことと同じです。

本当にすごいと思います。

専門部では、馴染みのない地域に出向き、何をするかも自分で考える企画設計訓練に挑んでくれました。

博多駅前でのゴミ拾いなど奉仕活動では、見ず知らずの人から「ありがとう」と言っていただけでしたね。

きっと、嬉しかったでしょう。

「ありがとう」と言われるだけでなく、自ら「ありがとう」と言える人になってほしいと思います。

私は、この壇上に立つたびに、

「トヨタの歴史のいちばん太い幹」に触れていると感じます。

それは、この学園が、トヨタの「人づくり」の歴史そのものであり、

皆さんこそが、その体現者だと感じられるからです。

「質実剛健な技能者を養成し、安価で良い車を製造したい」

これは豊田喜一郎の言葉です。

お金もなく、技術もなく、「日本人に自動車はつくれぬ」と言われた時代だからこそ、

喜一郎は「人を育てる」ことに強くこだわり続けました。

そこでつくったのが

豊田工科青年学校であり、今の学園の原点です。

初代学園長の豊田英二さんは訓練生たちに「未来に伸びよ」と語りました。

この言葉には、先人たちがつくり上げてきたトヨタらしさを継承し、  
未来へつなげてほしいという願いがこもっております。

豊田章一郎名誉会長は、

学園での講演会で「人間として成長し、各職場をリードする人になってほしい」と伝えました。

皆さんは、トヨタが守り抜いてきた歴史の上にいるわけです。

AI が当たり前の時代に、皆さんが学園で学んだこと。

それは、正解を探すのではなく、困難にぶつかっても、何度失敗しても、  
決してあきらめない強い心であり、仲間を想い、お互いに助け合う優しい心だったと思います。

だからこそ、私には、皆さんが輝いて見える。

そして、トヨタは大丈夫だと心から思えるのです。

職場に入れば、できることも増えますが、

組織に埋没すれば、できなくなってしまうこともあると思います。

そんな時は、この学園で学んだことを思い出してください。

それが、本当の「自分らしさ」であり「トヨタらしさ」なのだと私は思います。

皆さんが仲間と過ごした日々、自信を持ってほしいと思います。

そして、指導員の皆さん。

部下や後輩に厳しく接することが難しい時代に、  
生身の人間として、一人ひとりに全身全霊でぶつかっていただきました。  
生半可な覚悟でできることではありません。

皆さんは、彼ら彼女らにとって生涯、決して忘れることのない恩師です。  
これからも、その成長を見守っていただきたいと思います。

ご家族の皆様。

卒業生がここまで成長できたのは、学園に入る前のご家庭での教育があったからです。  
その1つ1つが、彼ら彼女らの支えになったのだと思います。

大切なお子様を私どもにお預けいただきありがとうございました。

卒業生一人ひとりの今後の人生が笑顔にあふれ、幸せなものになるよう、  
私も全力でサポートしてまいりますので、どうかご安心ください。

改めまして、皆さん、ご卒業おめでとうございます。

令和 8 年 2 月 27 日  
トヨタ自動車株式会社  
代表取締役会長  
豊田章男